ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

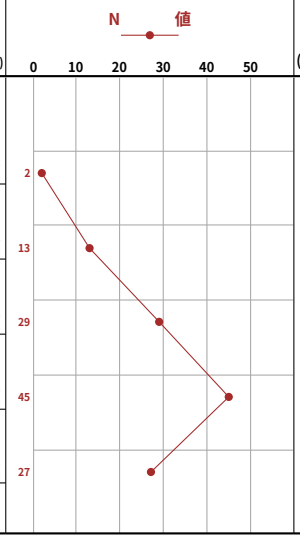
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.1	調査位置						北　緯	36 ° 29 ’ 28.5270 ”
発注機関	栃木県宇都宮土木事務所			調査期間	2008-10-17 ～ 2008-10-20			東　経	139 ° 52 ’ 52.0800 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	82.98 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	
総掘進長	5.45 m							試錐機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	82.58	0.40	0.40		シルト (M)	暗褐			表土(耕作土)、含水比中～上位腐植混入		10/17 0.60
	81.98	0.60	1.00		粘土 (CH)	黒褐			含水・粘性上位 少量の腐植物混入し粘性増す -1.0m掘削時水0.60mに確認する		10/18 1.00
1	81.48	0.50	1.50		砂質粘土 (CHS)	灰茶褐		軟らかい	含水粘性上位、φ10～30mmr位の礫約10%程度混じる、繊維質腐植物全体に混じる		
2					砂礫 (GS)	暗灰	中ぐらい		φ10～50mm位の亜円～亜角礫主体、φ100～150mm玉石が点在する。マトリックスは粗砂主体で充填する。玉石コア長50～70mm（推定φ100～150mm)が点在する。全体に含水量多く、崩れ易い状態、孔の自立性悪い、目視礫率70%程度		
3											
4	78.28	3.20	4.70								
5	77.53	0.75	5.45		砂礫 (GS)	茶褐	中ぐらい		φ10～30mmの亜円礫主体、マトリックスは細砂で幾分粘土含む全体に風化礫片混じる		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1	1	20	2／30
1.45				
2.15	4	5	4	13／30
2.45				
3.15	9	11	9	29／30
3.45				
4.15	14	12	19	45／30
4.45				
5.15	7	8	12	27／30
5.45				



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						10/17
						10/18